

令和5年度 東京都立王子総合高等学校 学校経営報告

校長 決定

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

今年度の経営テーマ タイム・パフォーマンス（時間対効果）を意識した業務の効率化に向け、「情報の共有化」と「組織を意識化」したマネジメントを実施する。

自己評価の基準

【A】：十分達成できた 【B】：概ね達成できた 【C】：あまり達成できなかった

(1) 学校経営・組織マネジメント

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今年度の取組状況
1 学校組織マネジメントを意識した学校経営 【A】	① 校務分掌を中心とした様々な業務のシンプル化、「見える化」を図り、全教職員が内容を把握できるようにする。 ② マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人財育成と人財配置（人事異動）を実施する（学年任せの分掌業務から、組織的な分掌業務へと移管を図る）。 ③ データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中）	① 昨年同様、業務の「見える化」を図り、年度当初には「学校経営戦略」を企画調整会議で配布し、本年度の課題について共通認識をもつことができた。 ② 企画調整会議を中心に分掌主任からの提案を実行に移すことで、ミドルリーダーの育成を図ることができた。 ③ 学校評価アンケートにより、課題の分析、掌握により RPDCA の実現を図った。 ④ 管理職による予算査定により、無駄な支出を抑えることができた。
2 働き方改革の実現 【B】	① 働き改革の具現化として、「無減代」を意識したマネジメントの実行とプロジェクトチーム（P T）による問題点の洗い出しを図る。 ② 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇15日以上を取得する。 ③ 男性教職員の育児休暇並びに育児短時間制度取得の推進	① 「働き方改革PT」を稼働させ、月1回程度の会議を通じて、「無減代」の実行に移した。年度当初より留守番電話の導入により一定程度の勤務軽減を図ることができた。 ② 夏休は完全消化できたが、有給15日以上を取得はある程度の職員は達成できた。 ③ 今年度においては、男性の育児休暇取得者はいなかった。
3 コロナ後の新たな学習環境「創り」の実行 【A】	① パラダイムシフト（枠組みの転換）における授業のあり方の検討・オンライン学習等、ICTを活用した学習環境の確保 ② コロナ前の学校行事に戻すのではなく、新たな王子総合の礎となるような学校行事の創設	① オンライン学習デーを設定し、校内からの授業発信を行った。またインフルエンザによる学級閉鎖の際には、オンライン配信により授業確保ができた。 ② 「0（ゼロ）から1（イチ）へ」を合言葉に、三大行事を実施できた。
4 カリキュラム・マネジメントを意識した教育	① RPDCAを意識した教育課程の編成 ② 総合学科としての特色ある教科横断型の教育課程の編成	① 「学校評価計画表」により、1年間の教育課程を編成した。 ② 3年次の「課題研究」を全校体

課程の編成 【A】	③ グランドデザインに基づく、全教科・単元のルブリックの作成と教科毎に評価規準を統一した観点別評価の実施	制で実施した。 ③ 各教科の代表者からなる学習評価PTを立ち上げ、観点別評価について学校としての方針を確立できた。
5 Tokyo スマート・スクール・プロジェクトの実現 【A】	① 費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Microsoft Office365を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施、スタディサプリによる学習補助や部活動指導員のアウトソースを活用する。 ② 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と完全な電子起案化の推進 ③ 給与明細の電子化の推進と各種文書のはんこレスの推進	① 様々な場面でTeamsを活用し、アンケート集計においてはFormsを利用する等、ICTを積極的に活用した。また、リクルート社のスタディサプリを導入し、補習等のアウトソースとして動画視聴を促した。 ② 職員会議の完全ペーパーレス化や電子起案率 100%達成できた。また、保護者からの欠席連絡もTAIMS メールに切り替えた。 ③ 保護者からの確認文書にはすべてはんこレスで対応し、給与明細の電子化を推進できた。
6 特色化を意識した教育課程の編成 【A】	① 生徒急減期を見越した系列の見直しと特色ある学校設定科目の再編 ② 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の総合学科の活性化の1つとして、NPOと連携した1年次「産業社会と人間」、2年次「人間と社会」、3年次「課題研究」と一貫し総合学科としてのキャリア教育のストーリー化を創り上げる事業構築（「見える化」）の実施 ③ 全校体制による探究活動（キャリア教育）の充実 ④ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の国際交流・海外派遣の推進の1つとして生徒が地球規模で自己の将来を展望できるよう、2、3年次において、多くの生徒が英語以外の外国語（フランス語、中国語、韓国語等）を選択できる環境の充実に努める。 ⑤ 海外学校間交流推進校として、姉妹校提携やオンラインでの交流、海外修学旅行の実現を図る。	① 系列を見直し、5系列から4系列に再編し、総合選択科目の見直しを全面的に行った。 ② NPOのForaと協働し、キャリア教育のストーリー化に向けたプログラム開発を行えた。 ③ 3年次の「課題研究」を中心に全教職員がOCA（王子総合キャリアアドバイザー）として、生徒一人一人の探究活動、進路支援を行った。 ④ スクールミッションの1つであるグローバル化への対応として、都教育委員会による海外派遣研修で、1名の教員と8名の生徒がプログラムに参加した。 ⑤ 大韓民国のソウル市の高等学校と姉妹校締結を行い、韓国・ソウル修学旅行の実現に向けて進めることができた。
7 人財育成 【A】	① 新規採用教員並びに若手教員を組織的に学校全体で育成を図る。 ② 主任教諭選考並びに管理職選考受験候補者を意識的に育成する。 ③ 授業力向上に向け授業研究を実施する。 ④ 分掌主任の適正配置により、経営参画を意識させる。 ⑤ 問題点を掌握し、プロジェクトチーム	① 若手教員育成研修担当の非常勤教員の配置により、計画的・意図的な若手教員育成研修を実施できた。 ② 主任教諭に1名、主幹教諭に2名、管理職候補者選考に2名の合格者を輩出できた。 ③ 年間2回の授業公開週間を中

	(P T)の立ち上げにより、教職員の意識改革により経営参画を図らせる。 ⑥ 校内研修の充実を図り、服務事故防止や教職員のマネジメント力等の育成を図る。	心に、授業研究を実施した。 ④ B選考合格者の教務主任への配置等、人財育成の観点から分掌主任を配置した。 ⑤ 3つのP T(働き方改革、学習評価、海外修学旅行)を立ち上げ、経営参画意欲を図らせることができた。 ⑥ 年3回の服務事故研修を実施し、コンプライアンスの観点から定期的な校内巡視を行い、事故防止を図った。
--	---	--

(2) 学習活動

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今年度の取組状況
8 「東京型教育モデルの実現」 【A】	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験から脱却した主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実践 ② TeamsやForms等のOffice365を活用した授業実践、及びスタディサプリの課題配信による個に応じた学習指導の実施	① ICTを活用した授業展開やアクティブ・ラーニングまではいかないが、各担当者の工夫による話し合い活動を中心とした授業展開は実施できた。 ② Office365は、すべての学年、教員において活用できた。「産業社会と人間」や「課題研究」等の授業において、タブレットの活用が進んだ。
9 新学習指導要領に対応した授業展開 【B】	① 同一科目担当者毎の評価規準を改め、全定期考査の共通問題化により観点別評価を含めた学習評価の評価規準を統一 ② 新たな科目に対応した教材研究の実施 ③ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の「体力向上」にあるエンジョイ・スポーツプロジェクト校の指定による生徒の多様なニーズに応える運動機会の設定と健康に対する意識を高め、生活習慣を改善プログラムの実施	① 学習評価P Tにより、各教科の評価規準を改め、全考査の共通問題化を図ることができた。 ② 新学習指導要領の年次進行により、新たな科目の実施により、教材研究に向けた予算措置等の支援を行った。 ③ エンジョイ・スポーツプロジェクトの指定を受け、選択科目や部活動において専門家による指導を受け様々な場面において生徒の変容を見ることができた。
10 AI時代に対応した学力の育成 【A】	① リーディングスキルテストの実施とすべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築 ② GIGAスクール構想スクールを意識したBYODを中心としたタブレット端末等の活用や Teams等を活用した授業展開の実施	① リーディングスキルテストの継続実施とテスト開発者による分析研修会の実施を行った。 ② 1、2年次生を中心に購入させたタブレットを授業内で活用する等の授業展開を行った。

(3) 進路指導

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今年度の取組状況
11 1年次からの系統的、組織	① ガイダンス等の丁寧な実施により、生徒の希望する進路実現を図る。	① 現役合格者による卒業生講話や進路ガイダンスを通じて、目

的な進路指導 【A】	② 科目選択や模試等を活用し、大学進学希望者への指導の充実を図る。 ③ 資格取得を促進し、個に応じた特定分野についての意欲や能力を高める。 ④ 年次任せではなく、キャリアデザイン部が中心となって組織として一貫した進路指導を行う。 ⑤ キャリアカウンセラーを中心にキャリアデザイン部や学年担任等が緊密に連携して進路相談機能の一層の充実を図る。	標達成に向けたモチベーションの涵養をすることができた。 ② キャリアデザイン部や年次担任、OCAによる指導により、希望する進路への充実を図れた。 ③ 英語科、工業科、商業科による積極的な講習体制等により、資格取得に向けた意欲の向上を図れた。 ④ キャリアデザイン部を中心にNP0 法人との連携により、3 年にわたるキャリア教育のストーリー創りを行うことができた。 ⑤ キャリアカウンセラーを中心にOCAによる進路相談機能を果たすことができた。
1 2 キャリア教育の重視 【A】	① NPO 団体や学校外の機関の支援等、外部人材を活用し、総合学科高校としてのキャリア教育の充実を図る。 ② 総合学科としてのミッションだけではなく、社会との接続（トランジション）を意識した「見えない学力」や「見えにくい学力」（コンピテンシー）の育成を図る。	① 「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」として、NPO と連携した社会人基礎力向上事業により、キャリア教育の充実に向けた取組を行うことができた。 ② キャリア教育の実践により、コンピテンシーベースの教育内容の充実を図ることができた。

（４）生活指導

今年度の取組目標	具体的 な 方 策	今年度の取組状況
1 3 SNS の適切な利用促進に関する指導の徹底 【A】	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS ルール」の徹底を図る。	① 滝野川警察署と連携したセーフティ教室、情報 I 等の授業や様々な場面を通じて、SNS の正しい使い方や「SNS ルール」の徹底を図った。
1 4 体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底 【A】	① いじめ・体罰に関するアンケートを年 3 回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。	① いじめ・体罰に関するアンケートを年 3 回実施し、記述内容によっては生徒からの聴き取りを実施。課題として残るものは見受けられなかった。 ② スクールカウンセラーとの綿密な打ち合わせ等により生徒情報を共有し、定期的な教育相談委員会を開催。重大事案にならないような組織を確立できた。

（５）特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的 な 方 策	今年度の取組状況
1 5 ホームルーム活動・生徒会活	① 担当教員が一方的に指示を出すのではなく、特別活動や部活動を通じて生徒	① ② コロナ後の特別活動として「0（ゼロ）から 1（イチ）へ」

動・学校行事を通して生徒の主体性の育成 【A】	が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により、問題をよりよく解決していけるよう支援する。 ② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。 ③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション（振り返り）を行うとともに、Forms等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出していく。	を合言葉に、コロナ前のやり方に戻すのではなく、自分たちで考えた新たな活動等を行うことができた。特に、王子総合の三大行事である体育祭・桜橙祭・合唱コンクールを実行に移すことができた。 ③ Teams や Forms 等を活用したリフレクションを必ず行い、次年度に向けた課題を見出すことができた。
1 6 部活動を通して健全育成 【B】	① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動内容や活動方法等を工夫することで、自宅学習の時間を確保する。 ② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。 ③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。 ④ 教職員の加重負担とならぬように、部活動支援員の活用と部活動の今後のあり方を働き方改革の面から検討する。 ⑤ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の部活動の振興」にあるSport-Science Promotion Clubの指定によるデジタル技術を活用した取組を推進する。	① 一部の部活動を除き、部活動ガイドラインに基づいた活動ができたが、土日連続して行う部活動に対しては、次年度徹底させる必要がある。 ② 部活動の在り方については、生徒部を中心にその在り方を検討した。 ③ 部費や部活動に係る予算執行については、生徒任せにすることなく、顧問が適切に関わりながら管理し、通帳及び印鑑は管理職の適切な管理下により執行できた。 ④ 働き方改革を進めるため、部活動支援員の活動時間を増加させたが、本来の部活動支援員の役割を勘違いして時数申請している部活動があったが、全体的に教職員の負担を軽減することができた。 ⑤ Sport-Science Promotion Clubの指定により科学的な根拠に基づく活動を行うことができた。
1 7 「Tokyo Active Plan for students」を踏まえた体力向上 【B】	① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。 ② オリンピック・パラリンピックを契機とした生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。	①② 体力向上だけでなく、スポーツに親しむ姿勢を育成した。

【安心・安全な環境作り】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今年度の取組状況
1 8 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。 ② 自転車使用に関する安全教育指導	① 北区や地元町内会、消防署等との連携により、1年次全体による総合防災訓練を昨年度よ

【B】	を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。 ③ 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。 ④ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。	りも拡充できた。 ② 自転車使用に関しては、生徒部が中心となり指導を行ったが、自転車ヘルメットの着用指導までには至らなかった。 ③④ スクールカウンセラーと定期的な情報交換を行い、課題のある生徒の対応については、いじめ対策委員会や企画調整会議等を通じて全教職員で共有化を図った。
19 危機管理の徹底 【A】	① アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、エピペン[®]やAED演習等、危機管理に努める。 ② 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、SOSの出し方に関する教育を推進する。 ③ 学校事故の未然防止(リスク・マネジメント)と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。 ④ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。 ⑤ 都教育委員会や警察等の関係機関と連絡を密にし、問題発生時には速やかに全校体制で対応にあたる。	① 年度当初にアレルギー疾患のある生徒情報を共有し、全教職員に対してエピペン[®]研修を実施した。 ② 生徒情報については、養護教諭やスクールカウンセラーと連携し、保護者とともに情報の共有を図った。 ③ 職員会議や服務事故防止研修等を通じて、リスク管理や発生した際のリカバリーについての情報の共有化だけでなく、組織としての対応の仕方、報告・連絡・相談体制については徹底できた。 ④⑤ 滝野川警察署を中心とした関係機関等との連携により、速やかに生徒の安全確保について対応できた。
20 保護者との良好な「顔の見える」関係づくり 【A】	① 保護者が安心して学校教育への参画できるよう、保護者会を中心とした情報の共有化を図る。 ② ホームページを活用した保護者向け情報の発信(パスワードをかけた保護者向け文書の掲載) ③ 保護者と学校が、生徒の希望進路実現のために3学年における三者面談の全員実施 ④ 学校評価による保護者の意向の把握	① コロナ禍が明け、「顔の見える関係づくり」のため、対面による保護者会を実施した。 ② HPではなく、スタディサプリの連絡機能を利用し、必要な情報は速やかに提供を行った。 ③ 3年次においては、三者面談を全員夏季休業期間を中心に実施できた。 ④ 学校評価の自由意見欄を通じて、保護者の意向等を把握することができた。

【募集・広報活動】

今年度の取組目標	具体的 な 方 策	今年度の取組状況
21 組織的な募集活動の充実	① 学校ホームページ以外にも Twitter やインスタグラムといったSNSを通じて本校の特色やイメージを提示	① ホームページ以外に、X (Twitter) やインスタグラムを活用し、生徒の活動状況を逐

【A】	する等、中学生目線にたった募集活動を実施する。 ② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校案内会だけでなく、学習塾の出張説明会等、積極的に広報活動を実施する。 ③ 私立高校を意識した学校案内の刷新、「まなびゅー」やYouTube等の動画の活用等、イメージ戦略を整える。 ④ 学校説明会や学校案内会の広報活動は、総務・国際部だけが行うのではなく、全校体制で、学校行事として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。	次掲載した。 ② 中学校からの出張説明会や区校長会主催の説明会には積極的に参加し、本校のPRを行った。 ③ YouTube 動画は作成できなかったが、学校案内を刷新し、生徒会や広報委員会の協力により、学校説明会・案内会等の実施することで、中学生・保護者のイメージアップに貢献した。 ④ 学校行事として、経営企画室を含めた全校体制で実施できた。
2 2 ホームページを中心とした広報活動 【A】	① 学校情報を適宜ホームページ掲載等、広報活動を充実させる。 ② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。 ③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。	① ホームページだけでなく、Instagram の内容を頻繁に更新するようにした。 ② カウンター機能を利用し、アクセス件数や各デバイスによる件数を把握した。 ③ 本校の様子を極力掲載できるようにし、年間更新回数は、300 回以上、一日平均のアクセス件数は約 1,000 件を超えた。

【経営企画室体制】

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今年度の取組状況
2 3 学校経営への参画 【A】	① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。 ② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として、「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等への積極的な参画。	①② 経営企画室全員体制による学校経営への参画により、適切な予算執行ができた。 ③ ICTを最大限活用し、電子起案率 100%を達成することができた。 ④ ワンストップサービスとして、経営企画室の窓口業務、電話対応について適切に実行できた。 ⑤ 業務改善を意識し、常に課題意識をもつことで、働き方改革を意識した業務を遂行することができた。 ⑥ 学校行事等にも、経営参画の一環として、参加出来た。
2 4 適切な予算執行 【A】	① 計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ② 生徒関係だけでなく、教職員の福利	① 計画的な予算編成並びに執行により、目標値としてのセンター執行率の向上を図ることができた。

	厚生面を意識した予算編成を行う。 ③ 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ④ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。	② 中・長期的な視点に立った予算編成指針を策定し、教職員の福利厚生を意識した予算執行を行うことができた。 ③ 教育活動に必要な消耗品等を購入した。 ④ 委託業者との連携により、適切な運営を行えた。
25 関係団体との連携 【A】	① 保護者会との積極的な連携を図り、校務運営を支える。 ② 所轄の警察署や消防署、関係機関等と連携した校務運営を図る。	①② 学校運営連絡協議会や地域連絡協議会を通じて、本校の理解促進や円滑な校務運営を実施できた。

(2) 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標	達成数値
生徒・保護者満足度	学校評価アンケートとして、 生徒の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u> 保護者の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u>	<u>64.4%</u> <u>80.3%</u>
キャリア教育の充実	① 進路決定率 <u>95%以上</u> ② 4年生大学進学者数 <u>100名</u> ③ 大学入学共通テスト出願者 <u>40名</u> ④ 各種資格・検定試験合格者数 <u>250名</u>	<u>94.0%</u> <u>127名</u> <u>21名</u> <u>249名</u>
募集対策の充実	① 学校見学会・説明会の参加者 <u>2,500名</u> ② 応募倍率（推薦選抜） <u>2.20倍</u> （学力選抜） <u>1.50倍</u> ③ ホームページの1日当たりのアクセス数 <u>1,000回</u> ④ Twitter、Instagram、ホームページの更新回数 <u>合計300回</u>	<u>3,065名</u> <u>2.64倍</u> <u>1.43倍</u> <u>1,668回</u> <u>377回</u>
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 <u>100%</u> ② 校内Wi-Fiを活用したICTによる全教職員による授業実践 <u>100%</u> ③ 全教職員によるOffice365 Teamsの活用実践 <u>100%</u> ④ 電子起案率 <u>100%</u>	<u>100%</u> <u>100%</u> <u>100%</u> <u>100%</u>
働き方改革の実現	① 教職員の夏休消化率 <u>100%</u> ② 教職員の年次有給休暇15日以上取得率 <u>100%</u> ③ 各月の残業時間80時間超の教職員数 <u>0名</u> ④ 男性教職員の育児休暇取得及び育児短時間制度取得者数 <u>1名以上</u> ⑤ 全教職員のテレワーク取得率 <u>100%</u>	<u>100%</u> <u>62.3%</u> <u>0名</u> <u>0名</u> <u>30%</u>